

# 英語科「英語コミュニケーションⅠ」学習指導案

実施日時：令和6年10月15日(火) 6校時

場 所：1年C組教室

対 象：1年C組

授 業 者：教諭 高橋 峻介

教 科 書：Heartening English Communication I(桐原書店)

## 1 単元名 Lesson 4 Creative Problem Solving

### 2 単元の目標

- ・英語を聞いたり読んだりして、複数の情報や考えなどを的確に理解することができる。
- ・英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝え合うことができる。
- ・外国語への理解を深めるとともに、目的や場面、状況に応じて、学んだ知識を適切に活用できる。

### 3 単元と関連する CAN-DO 形式での学習到達目標

日常生活の身近な話題について、英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさに注意しながら話すことができる。

【CEFR(A1)話すこと〔発表〕】

### 4 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> <li>・単元の内容を Retelling (Reproduction) をするために必要な語彙や表現等を理解している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・Retelling (Reproduction) をおこなうために、ポイ捨て削減に関する論証文を読んで、概要やメッセージを捉えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイ捨て削減に関する論証文を読んで、概要やメッセージを捉えようとしている。</li> <li>・ペアが目標を達成できるように、積極的に支援をしている。</li> </ul>

### 5 単元観

人間の心理や行動の特徴を利用し、創造的にポイ捨てをなくす方法を述べた論証文。公共の精神に基づき、主体的に社会に参画する態度を養う。

### 6 生徒観

1年C組は男子19名、女子13名で構成される普通科のクラスである。全体的に雰囲気がよく、促すと積極的にペアで活動をする。英語を読んだり聞いたりして理解することが苦手な生徒も多く、英語に苦手意識を持っている生徒が多い。既に別の単元で二回ほど Retelling (Reproduction) を行っている。クロームブックを他教科でも使っており、本単元から英語コミュニケーションのプリント類を PDF で配布し、授業中に使用している。

### 7 単元の指導と評価の計画（総時数：11時間）

主な言語活動等（◎本時の内容）	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>・説明文を読む前に、ポイ捨ての問題について知っていることを、ペアやグループで共有する。</li> <li>・説明文を読み、ポイ捨ての問題に関する課題やその解決策を英語で書く。</li> <li>◎・ポイ捨て問題に関する心理的アプローチとその成果について、リテリングを通して確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・活動の観察</li> <li>・自己評価シート</li> <li>・他者評価シート</li> <li>・成果物の提出</li> </ul>

8 本時の学習（本時 11 / 11）

(1) 目標

Retelling で Lesson 4 で学習した内容英語で伝えられる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動	教師の支援及び留意点
導入 7分	<p>○前時の復習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアでシート B の穴埋め音読をする。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><b>Reconstruct and explain the content in your words</b></p> </div>	<p>○発音が曖昧な部分は何度もリピート音読する</p>
展開 28分	<p>○音読練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シート C を使って、ペアで穴埋め音読をする。</li> <li>・シート D を使って、個人練習をする。</li> <li>・シート D を使って、ペアで穴埋め音読をする。</li> </ul> <p>○個人練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シート E を使って Retelling の練習をする。</li> </ul> <p>○ペア練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアでシート E または F を使って Retelling の練習をする。</li> </ul> <p>○個人練習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・シート E または F を使って Retelling の練習をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアが滞るとすぐにヒントを出すように促す。</li> <li>・早めに終わったら、個人練習を促す。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・何周も練習するように促す。</li> </ul>
まとめ 15分	<p>○ペアで Retelling</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いに発表する</li> <li>・お互いに評価し合う（評価フォームに書き込む）</li> </ul> <p>○全体発表</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒を選出し何人が発表する。</li> </ul> <p>○時間があったら 3 年生での到達目標を確認する。</p>	<p>○早くできたペアは相手の評価を書いてあげるように促す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>〔評価〕</p> <p>ポイ捨ての問題と解決策について、英語の音声的な特徴、話す速度、声の大きさに注意しながら話すことができる。</p> <p>— 鳳鳴高校 CAN-DO リストより —</p> <p>（評価フォームによる評価～自己評価、他者評価～）</p> <p>【思考・判断・表現／主体的に学習に取り組む態度】</p> </div> <p>○良かった点をフィードバックする。</p>

## ●教科・科目[ 英語コミュニケーションⅠ ]

授業者[ 高橋峻介 ]

指導者[ 大館国際情報学院高等学校 教育専門官 伊藤健吾 ]

## ●研究授業について

### ① 授業者から

授業参観ありがとうございました。前回までプリントだったが、ICTの活用ということで思い切ってクロームブックを使用したが、紙のよさもある。クロームブックを交換して入力しているが評価のコメントの量は紙のほうが多かった。慣れると長くなるのかもしれないが、プリントをノートにではなくPDFで配信している。一長一短、プリントは手軽だが、なくさなくていいという面もある。授業は暗唱になっている。1時間練習、次は発表。よく音読している。自分の言葉で発表するのをどう盛り込むか。両立できていない。

### ② 参観者から

・生徒があきない工夫があったが、すでに覚えた生徒にはつまらないものではないか。3年生での力の説明はあったが、今はどこが達成なのか。暗唱してきた生徒はどんな学びになるのか。電黒に完成形、ボリューム、スピードなどの評価ポイントがあるとよかった。→丁寧に練習の仕方を指導している。次回から負荷をかけてもいいのか。リピート音読やブランクを作ってヒントを書いて、自分でやる前にやり方の提示をしているところ。梯子掛けを外してもいいのかと考えている。

・シートの穴埋めはなぜ。英語はICTと相性がいい。→( )の位置を変えながら、枠を増やしたりしている。ヒントが変わるように頭に刺激を与えられれば。

・ICTしぼりの授業 テンポがいい。数学にはない。シートはオリジナルのものか。生徒の数学では見られない表情を見られた。→教材を足りないところを補ったり、穴あけにしたりしている。

・PDFだとプリントをなくさない、色もつく、視覚的には効果的。評価で使いたいが自分で作らなければならないと考えているうちに時間がたつ。目標は2年後のものだった。読めることは素晴らしいこと。積み重ねが効果的。音読が大事、今後も続けてください。

・ICT機器こんな使い方ができればいい。生徒にチャレンジさせてもいい。図だけに見せるとか。生徒のつけたしたい表現を追加させてみるとか。継続した活動として発展的に続けていただければ。

・席をずらす、発表はかえる、ペアを変えるなどでもよかったのではないかと。生徒がちゃんとやっていた。指示がよかった。チャレンジングできる生徒もいたのではないかと。他の生徒が何を書いているのか興味を持っていた。スピーディにすすめられ、あきない。録画して評価するなど工夫がまだできそう。いい授業だった。

・ワークシートは作成にどのくらい時間がかかるのか。1日はかかっていない。あるのをコピペしたもの。作成するのが難儀。最低限のヒント、かっこいいレイアウトで作っている。

・評価をフォームで入力する。評価をペアで変化させる。差ができたりするのか。拠点校の際も評価が課題ということになった。スプレッドシートで評価をまとめる、全員分の評価、録画の調査もしてみた。録画されていないグループもあった。その後、どう評価するか。時間をあけて発表するといいい。

### ③ 専門官からの指導助言

・評価の提示について、ヒントとアドバイスの定義をする。区切って一つ一つの意味をつきとめる必要がある。

・キャラがいい。話を聞きたくなる教員の要素、話を聞いて引き込まれている。

・英語で評価の説明をしてもいいのではないか。日本語で言わなくてもわかっている。英語で言ったほうが熱いメッセージが伝わる。決まりきったクラスルームイングリッシュよりも生徒の受け取り方がちがう。

・ICT活用の意味 PDF(プリント)SDGSで紙を削減。やりとりは紙のほうができるか。

・ドリルは必要。授業では途中で変化を入れるといいい。黒塗を生徒にさせるなど。生徒によって違うところを塗る。なぜ隠したか。生徒に聞いてみる。説明させてみる。

・リプロダクション(1, 2年)、リテリング(3年)入試問題を解くころに。

・知的レベル やって楽しいのか。その瞬間に何を求められているのか。リテリングの後で何個かピックアップして説明させてみることもできる。アウトプットのバリエーションがあればいいのでは。

・ひとつのパートが終わったらリプロダクション。穴埋めしたものを録音してグーグルフォームで提出。ALTIに評価してもらおう。思考・判断・表現に入れる。すべての語の発音、区切りに気を付けて。穴埋めの音読は2つまで見てもいい。評価項目についてミス数を何個とすると数えることしかなくなる。内容・語彙・文構造が残って欲しいので3つ具体例を入れて説明できたかなどにする。

・最後に、キャラがいい、英語でしゃべってもいいところ、それをやる意味をつきつめる。その場で相手がもとめていることを英語で返していくようにしたら、鳳鳴の生徒ならできるのではないか。